

裾野麗峰山の会山行報告書

文・写真 諏訪部豊

山行番 個人山行
日 時 2014. 7. 5 (土) 雨後曇り～6 (日) 晴時々曇り
山 域 南アルプス・北岳 (大樺沢左俣～北岳～草すべり、最高点=3193m)
コース 5日=広河原 6:40～大樺沢二俣 9:40～八本歯のコル 12:40・13:00～トラバース道
分岐 13:40～北岳山荘 15:00
6日=北岳山荘 6:00～北岳山頂 7:30・8:00～肩ノ小屋 8:20・8:40～白根御池小屋
10:30・10:50～広河原 13:30

標高差 上り・下り 広河原1520m～北岳3193m=1673m
参加者 村山、諏訪部、他6名

私は北岳には冬の1回も含めて合計10回ほど登っている。初めての北岳は19才時の白根三山縦走の折りだった。北岳の固有種キタダケソウ(北岳草)の存在はその時に知った。この高山植物は北岳山頂南側の石灰岩下の土壌にしか生息していない。しかも他の高山植物が花開く前の梅雨時にしか姿を見せない。つまりこの花を見るには梅雨時に北岳に登らなくてはならない。「梅雨時だから雨に打たれるだろうし、周りの景色は望めないだろう。この花を見るためだけに梅雨時に北岳に登るはバカバカしい」という思いで結局40年が過ぎてしまった。

しかし今春、芦安ファンクラブの清水さんから「肩ノ小屋の花壇に咲いているキタダケソウで満足せず、地生している本物をぜひ見に来て下さい」と言われ「今年こそ」の意を固めた。以前から私と同じ思いでいた方々にこのことを話すと「ぜひ行こう」ということになり、総勢8名での山行となった。

7月5日(土) 雨後曇り

前夜2台の車で早川町宮奈良田温泉の駐車場に入り、隣接する外良寺の軒先を借りて1泊した。



翌朝5:30発のバスで広河原に向かう。小雨だったのでバス乗車前から雨具を着た。広河原から二俣までの道中は小雨が降ったり止んだりだが次第に回復の様子を見せてきた。大樺沢左岸の2箇所のカレ場を迂回するために右岸に付け替えられた登山道は完全に定着していて左岸のかつての登山道は今や殆ど廃道になっている。

二俣にはまだトイレが設置されていなかった。二俣から先の大樺沢左俣は夏道が完全に雪の下なのでいきなり雪渓歩きとなる。同行者にはここからアイゼンを装着してもらった。私は、一週間前に登った清水山岳会の人「初心者のみアイゼンを装着した」という情報を元にしてピッケル片



手にキックステップで登った。結局アイゼンは必要なかった。

天気が徐々に回復してバットレスも良く見えるようになった。八本歯のコル手前でトレースは夏道に逃げた。丸木の階段をひとしきり登って八本歯のコルに出る。ここにはクロユリ（黒百合）が生息しているがまだ蕾だった。



バットレス4尾根から声が聞こえたがまだ取り付き辺りらしく登る姿は見えなかった。トラバース道との分岐に達し、北岳山荘に向かう。いよいよここから先にお目当てのキタダケソウがあるはずだ。

しばらくはハクサンイチゲ（白山一華）ばかりだったが、その内に確かにキタダケソウが現れた。そしてトラバース道の中間地点あたりでロープに囲まれた保護地帯に達した。そこにはキタダケソウの小群落が点在していた。キタダケソウは

花びらが薄いのでちょっとしおれ加減に見える。時期的には先週辺りがベストだったかも知れない。でも憧れのキタダケソウに出会えて大いに満足した。

他にはシナノキンバイ（信濃金梅）、ミヤマキンバイ（深山金梅）、ミヤマムラサキ（深山紫）、ミヤマオダマキ（深山苧環）、チョウノスケソウ（長之助草）、オヤマノエンドウ（御山の豌豆）などなど「今日咲きました」と言わんばかりの可憐な花々が

点在していた。



北岳山荘には15:00着だった。受付で「寝具なし素泊まり」と言うと「えッ！」と驚いていた。昨今はそんな泊まり方をしないのだろうか？また「訳ありビール」が350mL1本250円で売っていた。しかもプレミアムだ。8本調達する。

しばらく休憩して自炊場で小宴会と夕食にした。夕食はカツ丼だ。揚げたトンカツ、玉葱、生卵、すき焼きのタレを

背負い上げ、フライパンで調理する。一度に2人分しか作れないので4回に分けて作った。ご飯はパパットライスだ。「山でカツ丼なんて驚いた！」と皆さんに大好評だった。



自炊場は狭いので次のパーティーに席を譲り、食堂に移動する。今日誕生日のN君のためにこれも背負い上げたケーキで誕生日会を開催した。

身も心も満腹になったところで就寝となった。空は晴れ渡って満点の星空だった。

7月6日（日）晴れ時々曇り



日の出を小屋前で見ようと4:00に起きた。天気は良く雲海の上だったが残念ながらこの時期の太陽は八本歯の頭の向こう側から出るようだ。雲海の向こうから太陽が顔を出すような見事な日の出は拝めなかったが皆さん納得してくれた。

自炊場でパンとコーヒー・紅茶の簡単な朝食を済ませ、北岳山頂に向かう。登山道の両側には高山植物が豊富だった。

北岳の南側は岩が脆く、崩壊が進んで



いたがかなり手が加えられていて丸太による土留めがあちこちに設置されていた。清水さんの話では山頂直下にもキタダケソウがあるとのこと。注意して探したが見つけられなかった（後刻の清水さんの話ではまだ蕾状態だったとのこと）。

北岳山頂はそれほど混んでいなかった。鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、北アルプス、乗鞍岳、中央アルプス、御岳、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳など良く見えた。

景色を楽しんだ後、肩ノ小屋に下る。トイレが改築されとてもきれいになった。小屋下のテント場がまだ雪が残っていてテントが張れない状態だった。



小太郎尾根の分岐までの北斜面にはキバナシャクナゲ（黄花石楠花）が咲き誇っていた。真夏ではしおれた花しか残っていないがこの時期はこんなにきれいにそしてこんなに多くのキバナシャクナゲが咲いていることに驚いた。



草すべりの名物、シナノキンバイ（信濃金梅）とハクサンイチゲのお花畑はまだ少し早いようだった。やはりこれらは7月下旬頃が見頃だろう。

御池小屋の池は完全に残雪の下だった。御池小屋は2006年に改築されたとのこと。大きなログハウスになっていた。ソフトクリーム（バニラと白桃があった。白桃にした）がおいしい。

御池小屋からは樹林帯の道となる。誰もが楽しかった山行の思い出を胸に足取り軽く下る。

広河原小屋で運良く清水さんに遭遇した。山頂付近のキタダケソウを見に来て昨夜は肩ノ小屋泊だったとのこと。我々が辿ったトラバース道の咲き具合を報告し、また今回の山行のきっかけを作ってくれたことに礼を言って分かれた。

バスで奈良田へ戻り、町営温泉で一風呂浴びて帰路に就いた。



キタダケソウ



キタダケソウ



シナノキンバイ



チョウノスケソウ



ミヤマキンバイ



ミヤマムラサキ



ミヤマオダマキ



クロユリ